



横尾中だより

校訓「自立」 〈学校スローガン No Challenge, No Chance〉

R6. 3. 1
第54号

発行者
長崎市立横尾中学校
校長 小浦 末浩

今年、西暦2024年。4の倍数の年。この年はうるう年で、2月が29日（うるう日）までありました。この年はオリンピックが開催される年でもあります。これは、1年が365,2422日で、そのズレを調整するためのものです。英語では、うるう日のことをleap day（跳躍の日）と言い、毎年曜日が1日ずれるのがうるう年には2つ曜日がずれる、曜日を1つ飛び越える（leap）からだそうです。いろいろな文化があることを教えてもらいました。

学生インターンシップ 終了

保護者の皆様は、本校と長崎外国語大学が“連携”していることはご存知のことと思います。

その関係で、2月13日（火）、14日（水）、22日（木）、26日（月）～29日（木）の7日間、本校において、長崎外国語大学の3年生、5人が観察学習を行いました。1日、各教室に張り付けてもらい、学級の様子や生徒の発達段階を見てもらうこと、先生方の教科指導の様子を見てもらうことが主な目的でした。

彼女たち5人は、これまでも、昨年7月7日（金）の研究中間発表会や、11月24日（金）の研究発表会にも参加してくれていたため、抵抗感無く、観察学習ができたものと思います。

全員に、本校についての感想を尋ねたところ、「生徒の仲が良く、明るい子どもが多い」という、ほめ言葉をいただいたところです。今年の5月～9月には、それぞれが教育実習を受け、教員採用試験を受けることになるかと思っています。是非、頑張ってもらい、夢だった「教員」になってくれることを願っております。実際に、現在、教員のなり手が少なく、困っている学校が多くあります。「教員になりたい」と言ってくれる後輩たちの存在がありたく、後輩を育てる意味でも今回のインターンシップは、重要な機会だったと考えております。

生徒たちにとっても若い学生さんが入ってきて、休み時間に話をしたり、授業中に英語を教えてもらったりして、よい経験になったのではないかと、プラスの効果을期待したところです。

校長先生からは、厳しいことも言われたと思いますが、よく頑張った5人の学生さんたちでした。



2年：語学研修

2月28日（水）の5、6校時。2年生33名は、長崎外国語大学へ語学研修に行きました。これで3学年とも、長崎外国語大学での研修を済ませたことになります。

1年生は英語研修、2年生は他言語の語学研修、3年生は留学生との交流会と、段階的・発展的な学習になるように仕組みました。次年度以降も継続することになるかと思っています。また、大学の施設も合わせて見学させてもらい、大学の施設・設備のすごさを肌で感じる、よい機会となったことと思います。

今回、2年生はそれぞれの生徒が選択して、韓国語かドイツ語の研修を40分受け、大学構内を見学後、川島教授による英語の授業を30分受けました。韓国語の朴先生、ドイツ語のマラ先生には、たいへんお世話になりました。簡単な会話を覚えることができましたようです。2年生の生徒たちも楽しく語学研修ができ、少しだけ他国の文化に触れることができたのではないかと思います。チャレンジシートを書いていますので、感想はそのうちご紹介できればと思います。

なお、大学構内の案内、講師の紹介、司会進行などは、先ほどのインターンシップに来た5人の学生さんたちが行いました。また、地域連携センターの小鳥居教授には、昨年4月に本校にご来校いただき、全校生徒にフェアトレード（公平な貿易）についてお話をいただきました。今回も、地域連携センター長として、最初の歓迎のご挨拶と最後のお別れのご挨拶をしていただきました。地域連携センターには3人の優秀なスタッフの方々がおられ、本校からの研修については、教室の確保、講師の先生方への連絡・調整など、陰ながらのお仕事にご尽力いただいております。感謝です。生徒には、多くの方々のご協力があることも理解してほしいと思います。

